

DX人材育成 参画企業募集

DXを推進する人材の育成をお助けします!!



IT基礎・Python



AI



FS研修

新規雇用者または既存従業員に対して、ものづくり企業のDX化に必要な技術をゼロから習得する研修を実施し、DXスキルを活用して自社の生産性向上や業務効率化を実現できるファクトリーサイエンティストを育成します。

経済産業省のデジタルスキル標準をベースとしたカリキュラムで、2.5か月の専門的な集合研修と1か月の企業実習の計3.5か月の研修です。集合研修では、FS協会が実施する「ファクトリーサイエンティスト研修（FS研修）」も受講することができます。

OFF-JT

・ IT基礎 ・ Python ・ AI

・ ファクトリーサイエンティスト研修

2024.12月3日～2月21日

OJT

・ 企業内実習計画に基づくOJT

・ 先進企業見学

2025.2月24日～3月21日

募集締切:2024.11月22日(金)

お申し込みはこちら →



受講対象

新規雇用者、既存従業員（定員40名・先着順）

受講料 (税込)

132,000円（一人あたり）

助成金あり

会場

テクノプラザものづくり支援センター

条件

- ・ 岐阜県内に事業所がある企業が本事業の対象です。
- ・ 業種は問いません。

What's FS協会？

中小企業における実践的なデジタル人材の育成組織

中小規模の製造業の構成員がIoTデバイスによるエンジニアリング、センシング、データ解析、データ視覚化、データ活用の知識を身に付けて、データを軸に経営判断を素早くおこなうアシストをおこなう人材の育成に注目し、「ファクトリー・サイエンティスト」という人物像を提案。ファクトリーサイエンティストに必要なスキルを順番に学んでもらい、アクションプランを作成できる人材を育成する「FS研修」を実施。

【お問合せ先】

テクノプラザものづくり支援センター指定管理者
株式会社ブイ・アール・テクノセンター 研修部
〒509-0109 岐阜県各務原市テクノプラザ 1-21
TEL : 058-379-6370
E-mail : mono-kensyu@gifu-techno.jp





訓練受講までの流れ

1. お申込み(定員40名、最小開催人数5名)

A. 既存従業員の方を参加させる場合

テクノプラザものづくり支援センターに申込み、受講票を受領してください。(先着順)

B. 新規雇用者の方を参加させる場合

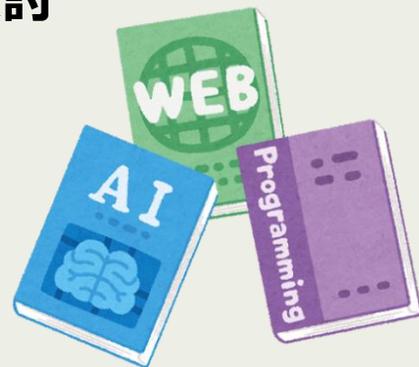
- ①ハローワークに求人票を提出してください。
- ②選考を行ってください。
- ③テクノプラザものづくり支援センターに採用する旨をお伝えください。(空き状況確認後の採用)
- ④受講票を受領してください。(先着順)

2. 厚生労働省 人材開発助成金の活用検討

受講料に対する経費助成とOFF-JT期間中の賃金助成制度がありますのでご検討ください。
※原則、研修開始1か月前までに申請書の提出が必要です。

3. 訓練受講開始

- ・原則、全日程のOFF-JTを受講者に受講させてください。代理出席は認められません。
- ・自己都合を除き、途中辞退はしないこと。
- ・研修終了後、修了者が貴社のDX化を進められるよう配置検討してください。



OFF-JT 研修科目について

本研修のOFF-JTは、全受講者に受講いただく「必須科目」と、従業員に身につけてほしい能力別に選択いただく「選択科目」で構成されています。

選択科目は「IoTコース」と「ITコース」からお選びください。両コースを選択することも可能です。

両コースを選択しても、受講料は変わりません。

必須科目

IT基礎・Python

DXマインドや組織デザイン、ITの基礎知識、サーバ構築、Pythonプログラミング等について学びます。

● 科目

- ・DXマインド・組織デザイン
- ・ハード・ソフトウェア基礎知識
- ・ビジネスモデル設計手法
- ・データの種類
- ・Linuxサーバ構築
- ・Pythonプログラミング
- ・Python×DBプログラミング
- ・Python×データ可視化プログラミング
- ・ネットワークセキュリティなど

AI

機械学習やディープラーニングと呼ばれるAIに関する基本的な概念の理解から、ChatGPTに代表される生成AIの活用方法、プログラミングにおけるAIの活用方法を丁寧に指導します。

Python言語を用いて、複雑なタスクを効率的に処理するためのAIプログラミングを指導し生産性向上に役立つプログラミング技術を習得します。

● 科目

- ・AIの基礎
- ・Python×AIプログラミング
- ・社会課題とDX
- ・DXの活用事例など

FS研修

IoTデバイスによるエンジニアリング、センシング、データ解析、データ視覚化、データ活用の知識を身に付けて、データを軸に経営判断を素早くできるように、これを支援する人材を育成します。

● 科目

- ・ローカル側システムの基礎
Arduinoマイコン活用
- ・サーバー側システムの基礎
Microsoft Azure活用
- ・データ加工とビジュアライゼーション
Microsoft PowerBI活用
- ・見える化・見せる化のさらなる追求
Microsoft Power Automate活用

選択科目

IoTコース



ラズベリーパイやマイクロビットなどの『IoTデバイス』と呼ばれる機器を活用することで、製造現場の温度や湿度、明るさ、エラーの回数、ひいては勤怠データなど、様々なデータを取得できるようになります。このデータを見える化することによって、データに基づく状況分析や生産性向上に役立てることが出来ます。

- 科目
- ・IoTデバイス活用
- ・協働ロボット安全教育
- ・ドローン研修

ITコース



RPA (Robotic Process Automation) ツールを利用し、パソコン上でのルーチンワークを自動実行する技術を学びます。今回は、PowerAutomateを利用します。

また、ドラッグアンドドロップだけでプログラミングが理解できるスクラッチを学びます。メタバース研修では、メタバース空間とビジネス活用について解説します。

- 科目
- ・RPA研修 PowerAutomate
- ・プログラミング基礎 スクラッチ
- ・メタバース研修